

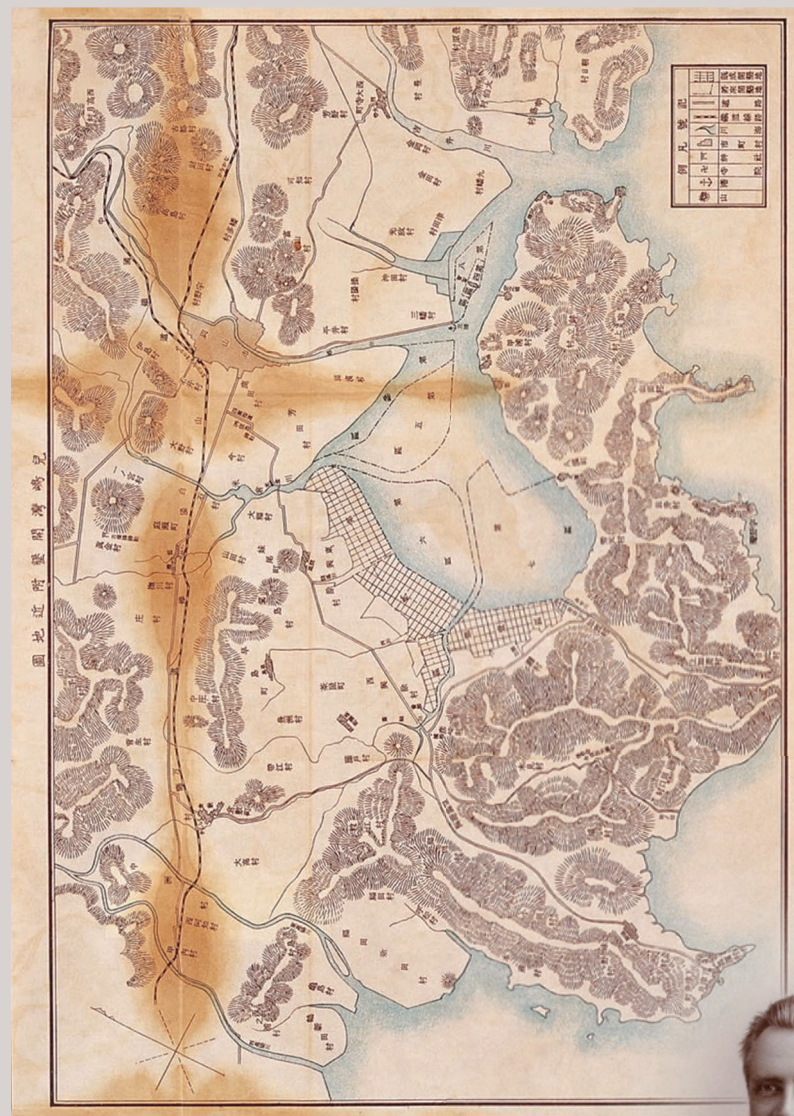
第21回

おかやま県民文化祭

これがOKAYAMA!

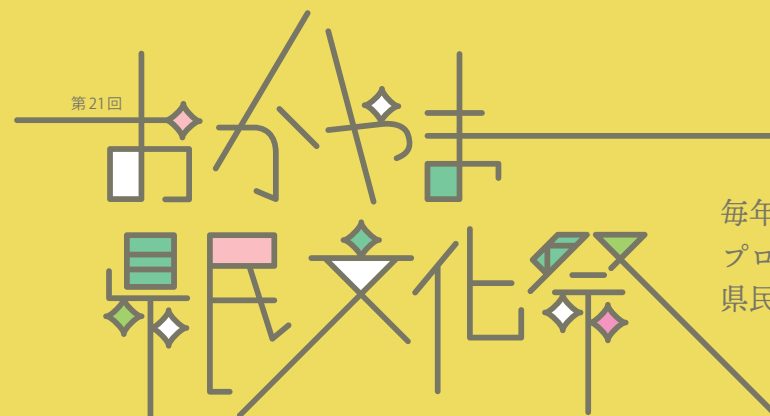
プログラム

びぜんのくに 備前国 溶け合う異文化



Melting of Different Cultures

Bizen no kuni



毎年9～11月開催！
プログラム数100以上
県民総参加の文化の祭典

県民が文化に親しみ交流するとともに、日頃の文化活動の成果を発表する場として、県内各地で様々なプログラムを開催しています。岡山県文化連盟は、運営主体として、おかやま県民文化祭の盛り上げを図っています。

プログラムの詳細は
総合パンフレットや
WEBサイトをチェック！

おかやま県民文化祭2023

検索

KEN BUNSAI 01 「主催事業」

- **これがOKAYAMA！プログラム**
備前国「溶け合う異文化」
- **文化がまちにあるプログラム**
備前・備中・美作の各地域で
人々が気軽に楽しめるまちを創出
- **君たちの未来へ！プログラム**
子どもたちが参画する分野別文化団体の企画
- **みんなが主役！プログラム**
《コンテスト・セクション》
・第58回岡山県文学選奨(8部門)
・第74回岡山県美術展覧会(2会場)

KEN BUNSAI 02 「共催事業」

- **「元気」にチャレンジプログラム**
文化パワーアップ・アクション助成
・子どもたちの文化活動を支援する活動
・団体のレベルアップを図る活動
・文化で地域を元気にする活動

KEN BUNSAI 03 「参加事業」

- **みんなが主役！プログラム**
《サポート・セクション》10部門
①音楽 ②舞踊 ③演劇 ④伝統芸能
⑤美術 ⑥映像 ⑦文芸 ⑧生活文化
⑨文化講演・シンポジウム
⑩総合(市町村文化祭等)

本リーフレット作成にあたり、ご協力いただきました関係各位に心より御礼申し上げます。

編集・発行者 | おかやま県民文化祭実行委員会(公益社団法人岡山県文化連盟、岡山県)
発行 | 2023年8月
デザイン | 株式会社 LogooDesign
問い合わせ | 公益社団法人岡山県文化連盟
〒700-0814 岡山県岡山市北区天神町 8-54 岡山県天神山文化プラザ 3F
URL o-bunren.jp MAIL bunkaren@o-bunren.jp
TEL 086-234-2626 FAX 086-234-8300



備前国 溶け合う異文化

私たちは暮らしている中で、なぜ此処に異国の人々がやってきたのだろう…と、不思議に思う場所や事柄に出会うことがあります。

異国の人々が伝えた、これまで見たことがなかった文化や技術が、とても自然に地域に根付き、今では、なくてはならないものとして馴染んでいたりします。地球規模で見ると、文化はどこか地続きで、微妙なグラデーションで緩やかにつながっているようすが、やはり遠く離れた国からやってくるものには、互いを出会わせる何らかの理由があるはずで、県内を見回すと、備前というエリアにはそういった、日本の文化と溶け合っている異文化があちこちに見つかります。

昨今では、軽々と国境を超えてやって来て、日本の伝統的な技術や文化を、自分たちの暮らしや仕事の軸足にしている若い人々も沢山います。そんな彼らから、私たちは日本の伝統的な文化芸術の良さに改めて気づかせてもらうことも増えてきたように思います。彼らはなぜ、ここ岡山を選んだのでしょうか。

中国山地では長きにわたり砂鉄の採取や、たたら製鉄のための木材の伐採が続いたため、大量の土砂が川に流され下流に堆積しました。1500年後半にはその土砂の堆積で児島半島と本土の間にある「吉備の穴海」に干潟が形成されました。オランダはライデン生まれのアントニー・トーマス・ルベルタス・ローウェン

ンホルスト・ムルデルは、デルフト工科大学を卒業後、ハーグ市で土木の設計技師として働いていましたが、31歳の時に日本の内務省の土木技師として来日します。2年後の1881年には、岡山で綿密な調査を行い「児島湾干拓計画図」を作成しました。彼は調査の中で、山々の樹木の伐採を続けることによって土砂の流出が止まらず、洪水を引き起こすことを憂慮し、伐採の禁止や川の主流における砂防の必要性なども提言しています。異国からやって来た30代の若者が果たした役割は、とても大きく、すでに140年も前に、彼は環境保護や治水の方向性を示していたと言えます。

臨濟宗妙心寺派の禅寺、曹源寺は、岡山藩池田家の菩提寺ですが、ここには世界各地から修行者がやって来ます。20人あまりの修行者のほとんどが外国の人であるお寺は、日本国内でもとても珍しいのではないのでしょうか。ここでは美術作品の展示も行われることがありますので、それをご覧になり訪れた方も多いでしょう。

そして、日生にはBIZEN中南米美術館があります。魚網を製造し海外にも広く販売していた森下グループの初代社長森下精一氏がコレクションしたインカ文明やマヤ文明の土器や土偶、布などが展示されており、国内外より研究者が訪れる貴重な場となっています。

また、よく知られているものに、牛窓の朝鮮通信使があります。1600〜1800年代に、出発地点の朝鮮の漢陽(現在のソウル)よりやって来た使節団一行は、時に数百人にもおよびました。様々な技芸に秀でた者も多く含まれていたといえます。県の重要無形民俗文化財である唐子踊は、この一行の中で人々のお世話をしながら旅の慰めとして歌や踊りを披露した、才能あふれる子どもたちの服装や踊りに影響を受けたのだとされています。

今年のおかやま県民文化祭「これがOKAYAMA! プログラム」では、備前国へ溶け合う異文化をテーマに取り上げます。

穏やかな内海の航路と良港の存在、豊かな自然、山から海へと注ぐ水量豊かな川、古くから人の往来が多かったこと、暮らしやすい気候などが、備前国へと人々を惹きつけて来たのかもしれないが、さらに、これをきっかけに、身近に暮らす異国からの人々の話に耳を傾け、一緒に何かをしてみるのも良いのではないのでしょうか？彼らを誘ったものは一体何なのか…。溶け合う異文化という視点で地域をあらためて見つめ直すと、これまで気づけなかった備前というエリアの持つ地域性や、文化の特性、魅力などが、じわりと浮かび上がってきそうです。ここで取り上げるのは、異文化とつながりの深いヒト・場所・コトです。どうぞ、この冊子を手掛かりに各地を訪ねてみてください。

備前国(びぜんのに)とは

旧国名。吉備国を大化改新後に前・中・後に分けたうちの一つ。713年(和銅6)、北部は美作として分離。今の岡山県の南東部。古称、きびのみちのくち。備州。※引用：広辞苑第七版

まるで虹のように岡山市、玉野市、備前市、瀬戸内市、赤磐市、和気町、吉備中央町のなないろの地域がひとつになった備前エリアを今回のこれがOKAYAMA! プログラムでは対象としています。アクティビティやフルーツ狩り、歴史・文化やアートなどそれぞれの場所で輝く個性豊かなスポットは、明るく前向きな気持ちにしてくれる楽しみがいっぱいです。

● “文化芸術に出会える国”

日本三名園のひとつ、岡山後楽園に岡山城。岡山県を代表する名所の周辺地域は各種の文化施設が集結し、「岡山カルチャーゾーン」と名付けられています。内外の優れた美術作品・芸術作品を紹介する「岡山県立美術館」や、西アジアを中心とした美術品約5,000点を収蔵する日本でも数少ない専門館である「オリエント美術館」など、豊かな緑に囲まれた旭川の美しい水辺で、岡山の芸術や文化との出会いがあります。

● 郷土料理やフルーツが楽しめる “グルメの国”

四季を通じた味覚の変化が楽しめるサワラは岡山が消費量日本一。家庭には欠かせない魚です。サワラなどの海の幸と、山菜や旬の野菜などの山の幸を鮮やかに盛り合わせた岡山ばらずしは備前の郷土料理。全国第3位の出荷量を誇る牡蠣の時期には県外からもたくさんの常連客が訪れます。また、「晴れの国」と呼ばれる岡山では、古くから農業が発達しました。白桃、ピオーネ、マスカット、メロンやレモンなど温暖な気候を利用して多彩な果樹が栽培されています。

さらに詳しい情報は、
Webサイト「びぜん岡山にじいろトリップ」と
ebooks「ええじゃねえ 備前おかやま」をチェック！



このページは、びぜん岡山にじいろトリップ、冊子「ええじゃねえ 備前おかやま」の情報をもとに作成しております。



Bizen no kuni

おかやま県民文化祭「これがOKAYAMA! プログラム」は、大月ヒロ子氏の企画・監修のもと、岡山県内の優れた文化・芸術資源を掘り起こし、その価値を県民の皆様が再認識することを目的として、おかやま文化芸術アソシエイツが運営・実施しています。



大月ヒロ子
武蔵野美術大学卒業後、板橋区立美術館学芸員として数多くのワークショップや展覧会を企画。その後独立して有限会社アイデアを設立。九州国立博物館「あじっば」、国立歴史民俗博物館「たいけんれきはく」、大阪府立大型児童館 big bang 他で、コミュニケーションを誘発する新しい学びの場のデザインに取り組んだ。倉敷市玉島の実家を改装して、日本で初めてのクリエイティブリユース(家庭や企業から日常的に生み出される廃材をそのまま廃棄せず、人のクリエイティビティ(創造性)を使って、これまでに見たこともないような素敵なモノに生まれ変わらせる取り組み)の拠点「IDEA R LAB」を開業し、全国から注目を浴びている。平成29年7月、おかやま文化芸術アソシエイツのプログラム・コーディネーターに就任。令和5年4月1日から同アソシエイツのエグゼクティブ・アドバイザー。



やさしい日本語(にほんご)で
ミュージアムを楽(たの)しもう！

〈やさしい日本語(にほんご)で
アートを楽し(たの)しむ
ワークショップ(わーくしょっぷ)〉

伝統工芸(でんとうこうげい)で つながる
あなたと 私(わたし)の 部屋(へや)

「伝統工芸(でんとうこうげい)」と聞(き)いて
どんなものを 考(かんが)えますか？
日本伝統工芸展(にっぽんでんとうこうげいてん)を
見(み)て、あなたの部屋(へや)に
飾(かざ)りたい 作品(さくひん)を みつけましょう。
そして、みんなと 話(はなし)をしましょう。

[日程] 11/25(土)13:00~14:30(受付は12:45~)
[対象] 留学生(りゅうがくせい)、外国(がいこく)にルーツを持(も)つ
または プログラムに興味(きょうみ)のある
18歳以上(さいいじょう)の人(ひと)
[料金] お金(かね)がかかります。
値段(ねだん)はWebをみてください。
<https://okayama-kenbi.info/>

[定員] 12名
[会場] 岡山県立美術館(おかやまけんりつびじゅつかん)
[問合せ・予約] 086-225-4800 (岡山県立美術館)
kenbi-entry@pref.okayama.jp (県美教育普及事業申込専用)

〈講師〉高尾 戸美 Hiromi Takao
ミュージアムコミュニケーションデザイナー、合同会社マープルワーク
ショップ代表、東京生まれ札幌育ち。3つのミュージアム勤務、博物館づ
くりのプロジェクトの他、非常勤講師として大学の学芸員養成に携わ
る。現在はミュージアムと多文化共生について研究するため、2023年
春に倉敷に移住し、岡山大学大学院に進学。やさしい日本語の普及に取
り組んでいる。[WEB] <http://marblews.com/>

岡山の街を歩くと、外国の方々をよく見かけるようになっ
たと感じることはありませんか？その実数を一緒にみて
いきましょう！

実は、岡山県内の在留外国人数は、2022年12月末現在
32,042人となっており、この数字は前年と比べて2,607
人増加し、過去最多となっています(全国総数3,075,213人の
約1.0%)。さらに詳しいデータを見てみると、国籍別ではベ
トナムが4年連続で最多を記録し、平成29年と比較して
約1.8倍に増加しています。また、在留資格の中でも、技能
実習が全体の4分の1を占める大きな割合となっています。
この技能実習や留学は、2年連続での減少を経て、最近
になって増加の傾向が見られます。さらに、技術・人文知
識・国際業務や特定技能の分野でも増加していることが
確認されています。

参考：岡山県 国際課
「岡山県における在留外国人の状況(令和4(2022)年末現在)」

また、県や各市町村は、文化交流や親善を目的として、「姉
妹・友好都市」の提携を行っています。文化やスポーツ、青
少年交流など様々な活動を通じて国際交流をしています。
半世紀以上も交流をしている都市もあり、締結都市も様々
です。交流の長さや各市町村の締結先の特色をみていくの
も面白いかもしれません。

姉妹・友好都市

〈岡山市〉

- ・サンノゼ市(米国・カリフォルニア州)[1957]
- ・サンホセ市(コスタリカ)[1969]
- ・プロブディフ市(ブルガリア)[1972]
- ・洛陽市(中国・河南省)[1981]
- ・富川市(韓国・京畿道)[2002]
- ・新竹市(台湾)[2003]
- ・ウマティラ・インディアン居留区部族連合
(米国・オレゴン州ベンドルトン市)[2005]
- ・グアム準州(米国)[2010]

〈玉野市〉

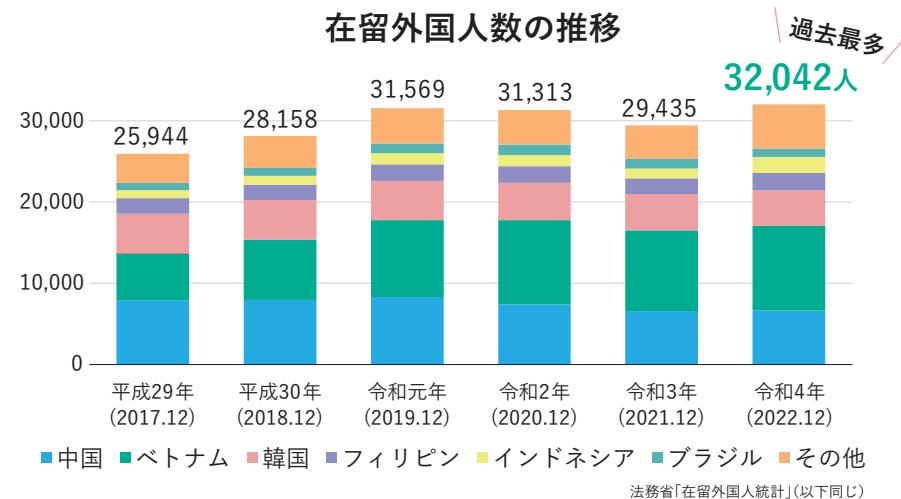
- ・統営市(旧忠武市)(韓国・慶尚南道)[1981]
- ・九江市(中国・江西省)[1996]
- ・グロスター市(米国・マサチューセッツ州)[2004]

〈備前市〉

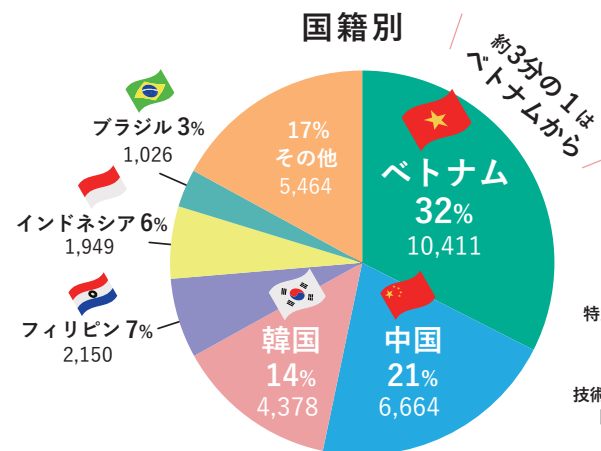
- ・クレア&ギルバートバレー町
(オーストラリア・南オーストラリア州)[1990]
- ・メンローパーク市(米国・カリフォルニア州)[2015]
- ・蔚山広域市東区(韓国)[2015]

岡山県の在留外国人は、どのくらい？

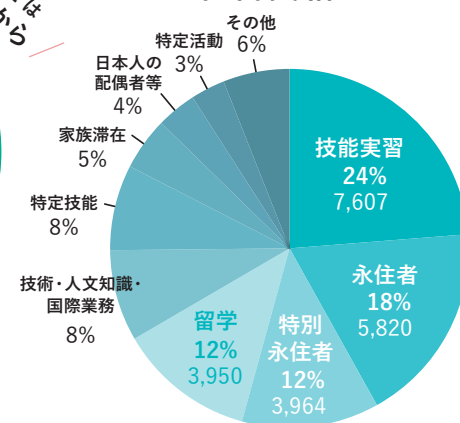
在留外国人数の推移



国籍別



在留資格別



〈瀬戸内市〉

- ・ミティリニ市(ギリシャ)[1982]
- ・密陽市(韓国・慶尚南道)[2005]

〈赤磐市〉

- ・ヴァルハウゼン村(ドイツ・ラインラントファルツ州)[1995]

〈和気町〉

- ・上海市嘉定区(中国・上海市)[1992]
- ・ハナ町(カナダ・アルバータ州)[1993]

〈吉備中央町〉

- ・淮安市淮安区(中国・江蘇省)[1999]

参考：岡山県 国際課
「岡山県及び県内市町村の友好(姉妹)提携の状況(令和3年4月1日現在)」

※ 姉妹・友好都市は備前国エリアのみ掲載。□内は締結年



先祖を思う、隣人を思う法事の文化 済州島の法事の料理を食べてみよう！

済州島での法事は、近所の人と一緒に料理を作り、一緒に食べて、残った食べ物を持って帰るという風習がありました。今回は、煎(ジョン)、肉料理、ナムルなど済州島の法事料理を食べてみるワークショップになります。

【日程】10/30(月)17:00~18:30 【対象】どなたでも
【料金】4,000円(食事付き) ※要予約 【定員】15名
【会場】韓国料理 佳牛味 COWMI (岡山市北区吉宗679-3)
【問合せ・申込】086-234-2626 (公社)岡山県文化連盟



お申し込み

＜講師：張 元子 (ジャン ウォンジャ)＞

韓国の南の島・済州島生まれ。父は貿易船や漁船を営み、母は郷土料理でおもてなしをする旅館を運営。その母の料理を幼い頃から手伝う。韓国済州税関で仕事した後、日本人の母を持つ配偶者の仕事で名古屋へ。その後、大阪の転勤を経て岡山に。韓国料理のおいしさをみんなと分かち合いたく2006年に「韓国家庭料理・佳牛味(カウミ)」オープン。娘の金孝妍(キムヒョヨン)が韓国の法事文化や料理について説明。

異文化にまつわる人

INTERVIEW.01

国際芸術文化交流

ご自身の活動における異文化との関わりについて教えてください。

韓国の代表的な民俗打楽器と踊りは、人間の心の深いところにある魂を呼び起こすような、興と美を全世界の人が一緒に楽しめるものです。

特に韓国伝統打楽器で有名なチャンゴは、韓国特有の表現として左右の手の握り方が違い、打つ方向も違うため、世界中の芸術家たちの関心を受けています。非常に楽しく自由に打つことができ、特に脳の運動になります。踊りで重要な呼吸についても、上下腹式呼吸をしながら足の裏だけを使い移動するのではなく、前足指から中足底と後蹄まで3回に分けて移動する踊りなので、細かい動きの美しさも表現することができ、健康にもとても良いです。瀬戸内市牛窓地区では、チャンゴや韓国伝統踊りをたくさんの方に知っていただき、国の壁を越えた芸術を通して、体と心で文化交流を元気に楽しんでいます。

異文化との関わりを通してどんな変化がありましたか。 また、どんな変化を期待していますか。

昔の先祖たちが長きに渡って積み上げてきた芸術文化交流は、現在の私たちにも脈々と受け継がれていると思います。四季を同じくする隣国でありながら異なる文化風習と生活風習を持ちますが、実はその根が近いことを理解することで、互に関心を深めていくことができると思います。瀬戸内市牛窓では、江戸時代から朝鮮通信使を介して様々な芸術文化交流が行われてきましたが、現在ではK-POPや流行りのファッション、ダンスなど、新たな交流が続いています。伝統打楽器や踊りは根源的に人間が楽しむことに通じているので、それらを知ってもらう活動を続けることで、これからの若者が未来においても新たな関心を芽吹かせ、国際交流につながるきっかけが増えることを期待しています。



曹永姫 韓国伝統舞踊研究所
(チヨ・ヨンヒ)

2006年 瀬戸内市立牛窓西小学校で韓国伝統芸術非常勤講師に抜擢される。韓国芸術文化(プチェチュム・サムルノリ)の授業の一環として児童とともに当時の牛窓朝鮮通信使祭り「游・SEA・牛窓エーゲ海フェスティバル」に参加してから、現在まで牛窓朝鮮通信使行列の行事に関わっている。岡山県韓国教育院芸術教師。

2007年 韓国芸術文化団体総連合会日本関西支部理事

2016年 チャンゴ全国国楽伝統芸術競技大会(名人大会賞国会議長賞受賞)

2021年 ソウル中央大学国楽教育大学院修士、国楽教育資格認証



Ushimado & Korean Peninsula

牛窓港(左下が黒島)



通信使の書軸が残る本蓮寺



通信使接待のために設けられた 御茶屋井戸



唐子踊

日本のエーゲ海とも称される景勝地・牛窓。その美しい景色を構成する島の一つである黒島には全長約80mの前方後円墳が築かれており、その陪塚からは朝鮮半島で作られた陶質土器が出土している。そんな朝鮮半島とのつながりを示唆する黒島の前方後円墳を含めて牛窓湾を臨む丘陵には5基の前方後円墳が築かれており、吉備の海を支配していた吉備海部直(きびのあまべのあたひ)一族の墓ではないかと言われている。吉備海部直一族は、日本書紀の中で朝鮮半島との関係部分に登場しており、出土した陶質土器はそれを裏付けるモノだろうか。何れにしても大きな前方後円墳を築いた権力者は、海を通じて朝鮮半島から新しい技術や文化を取り入れ、富を得ていたのだろう。

そのように古代から朝鮮半島とのつながりを持つ港町・牛窓は、江戸時代に朝鮮国からの使節団である朝鮮通信使の岡山藩の接待地となった。朝鮮通信使が寄港する際には、岡山藩の儒学者が牛窓に来て筆談で詩文を応酬するなど文化交流が行われた。

Ushimado

牛窓と朝鮮半島

Korean Peninsula

また、外国との交流が制限されていた時代において、朝鮮通信使は民衆が異国文化を身近に感じる数少ない機会であり、山陰などの遠方からも見物人が来た。見たこともない衣装や聞いたことがない音楽に民衆はどれほど感嘆したのだろうか。江戸時代に各地の祭礼に通信使を模した行列などが取り入れられたことを考えると容易に想像できる。

江戸時代の牛窓村の西端に当たる紺浦には唐子踊が伝わっており、今も地区社である素盞鳴(すさのお)神社(疫神社)の秋の祭礼に奉納されている。異国風の衣装を着た男児二人が、太鼓と横笛、そして今となっては意味の分からない囃子に合わせて対舞する他に類を見ない踊りである。唐子踊の起源については分かっていないが、紺浦の人々が朝鮮通信使を見た感動もあって地域の祭礼に取り入れたのかもしれない。

瀬戸内海を通じてもたらされた異国の技術や文化。それらが地域の中に取り入れられ今も息づいている。

(瀬戸内市 産業建設部 文化観光課 課長 若松孝史)

PICK UP
03

瀬戸内市

ズグラフフィート制作で溶け合う異文化 ズグラフフィート イン 瀬戸内市 ～オープン美術館

昨年度から、瀬戸内市の協働提案事業補助金に採択された「ズグラフフィートイン瀬戸内市～オープン美術館」事業に、「POLISH ART AND SCIENCE MISSION IN JAPAN」のメンバーの方々と邑久高校美術部、瀬戸内市が連携して取り組んでいます。本事業は、ヨーロッパ文化でポピュラーな伝統壁画技法「ズグラフフィート」を用いて、ポーランド出身の芸術専門家(ラデック・プレディギエル氏/瀬戸内市在住)から高校生が異文化の歴史や制作手順を学び、体育館壁面に大きな壁画作品を制作するというものです。作品制作を通じて若い世代に異文化への理解と地域への愛着を促進させ、邑久高校の魅力を向上させるとともに、作品を瀬戸内市のシンボルの1つとして残していきます。作品の完成は令和5年8月頃を予定しています。

ズグラフフィートは石灰と砂で作ったモルタルを2つの色にわけて重ねて(例、黒の上に白)固まる前に自分がしたいデザインに削ります。ルネサンス時代からポーランドだけでなく、ヨーロッパでこの技法が使われています。



岡山県立邑久高等学校 美術部

[住所] 〒700-4221 岡山県瀬戸内市邑久町尾張 404

[電話] 0869-22-0017

[WEB] www.oku.okayama-c.ed.jp/wp/#aboutschooll

[SNS] facebook.com/555615074533695

瀬戸内市唯一の高等学校。1学年普通科1クラス、生活ビジネス科2クラスで構成されており、普通科には文系・理系の他に、美術を多く学ぶ「美術重視モデル」が専攻できます。将来美術やデザイン分野で活躍したいと考えている生徒たちに対して、授業や部活動、地域と連動した創作活動など、様々な学びの場を用意しています。

玉野市

PICK UP
01

宇野港を教育フィールドに！ たまのステューデント ガイドプログラム

月1～2回程度、宇野港周辺や直島等を中心にプログラムを行っています。活動内容は、宇野港周辺や直島、豊島等を訪れる日本人・外国人観光客、地域住民等に対するおもてなし活動、国際交流活動、魅力の発信等を行うことです。コロナ禍においては県内在住の留学生を招きプログラムを開催しました。

プログラム中に学生の緊張が徐々に解け、観光ボランティアガイドとして積極的に観光客へ話しかけていく姿が印象的です。外国人を対象に、学生自らが持つ英語力・コミュニケーション力を尽くし、地域の魅力を発信しています。学生たちは、自身の持つ文化と外国人の方が持つ文化の交流を、理解し、共有する体験を積み重ねています。その積み重ねは、宇野港をフィールドとして若者たちが世界と接点を持ち、成長していく様を我々に見せてくれます。自らと地域のつながりを感じることは、地域の魅力に気づき、将来に渡り地域に関わっていくとする姿勢を育みます。地域への愛着を持つこと、地域とのつながりを維持していくことが、玉野市で活躍する人材の育成にもつながると考えています。



瀬戸内国際芸術祭たまの☆おもてなし推進委員会 たまのステューデントガイドチーム

[住所] 〒706-8510 岡山県玉野市宇野 1-27-1

[電話] 0863-32-5577

[MAIL] studentguide@city.tamano.lg.jp

たまのステューデントガイドプログラムは、「宇野港を教育フィールドに！」というテーマのもと、2017年より活動を開始しました。玉野市に関わる学生が、観光ボランティアガイド「つつじの会」や瀬戸芸サポーター「こえび隊」などの団体と連携し、地域の魅力に触れ、観光客に対するおもてなし活動を行う団体です。

異文化にまつわる人 INTERVIEW.02

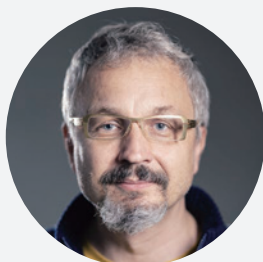
ズグラフフィートIN岡山 ポーランドの伝統と日本のインスピレーション。

ご自身の活動における異文化との関わりについて教えてください。

私はパリで瀬戸内市在住の妻と出会い、岡山にきました。私は壁画(フレスコ画とズグラフフィート)を描く画家です。また、Polish Art and Science Mission in Japanの代表でもあり、ポーランドと日本の文化交流に携わっており、展覧会、コンサート、講演会などを企画しています。2020年に瀬戸内市で、(備前福岡、牛窓、邑久)ズグラフフィートの壁画を完成させました。このアイデアがとても人気になり、「邑久高校でも生徒さんたちといっしょに何か作りましょう」という話が生まれて、2022年から四季という壁画を作っております。すでに春と夏という壁画を完成させ、今年2023年秋と冬の壁画を完成させる予定です。

異文化との関わりを通してどんな変化がありましたか。
また、どんな変化を期待していますか。

邑久高校の活動を含め、このズグラフフィートプロジェクトを通して様々な地域の人たちと関わって、色んなアイデアとインスピレーションが生まれました。ズグラフフィートの良さと知識を岡山や日本に広めていきたいです。これからも様々なズグラフフィートプロジェクトを企画してさらに美しい地域を作り、ポーランド文化と交流を続けていきたいです。



1973年 ポーランドに生まれる
1998年 ワルシャワ国立芸術大学絵画科(専門は壁画を選択)
2001年 フランスパリ59Rivoliでアートプロジェクト。
2004年瀬戸内市邑久町に移住。
2012年 Polish Art and Science Mission in Japanを立ち上げ、ポーランドと日本のアートの交流と発展に尽力。コンサート、ワークショップ、展示、レクチャーなど。

POLISH ART AND SCIENCE MISSION IN JAPAN
ラデック・プレディギエル Radek Predygiel

岡山市

PICK UP
02

多文化交流の輪を岡山に ～コミュニティの枠を超えた グローバルなまちづくりを目指して～ The World Kitchen

コミュニティの垣根を超えた日常的な多文化交流を促進し、多様性を認め合う価値観を醸成をすること、そしてそれを岡山の文化として育て上げ、誰もが住みやすいグローバルに開かれたまちづくりを推進することを目的として、多文化交流フードイベント The World Kitchenを企画・開催している。本イベントでは、岡山県内で世界各国の料理を提供する飲食店・団体の出店、各国の歌や踊りを披露するステージパフォーマンス、留学生や参加者同士の交流を促進するワークショップを提供し、食や文化を通じて、出店者、留学生、地域住民など、異なるバックグラウンドを持った人々がコミュニティの枠を超えて交流をする機会を提供する。この活動を単発のイベントでなく、本イベントで生まれた継続的な交流をグローバルに開かれたまちづくりへ繋げていきたい。これまで、石山公園にて2回開催し、合わせて約2,000人の方が来場。次回は2023年秋に開催を予定しており、The World Kitchenでの出会いや交流を継続的なものにするを目的として、世界の料理を共に作り交流するMini The World Kitchenの開催も企画。



The World Kitchen 実行委員会

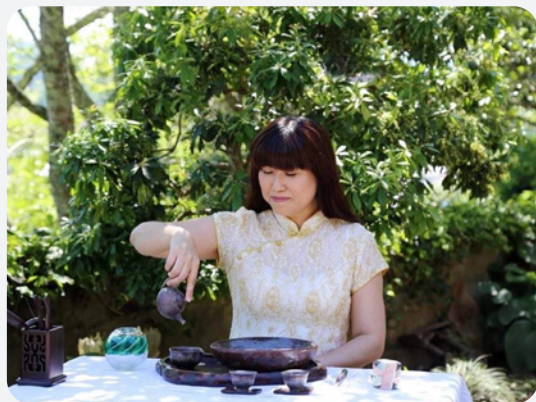
[住所] 〒700-0812 岡山県岡山市北区出石町

[電話] 070-4496-2049

[MAIL] theworldkitchen2023@gmail.com

[SNS] facebook.com/100090463672381

岡山大学グローバルディスカバリープログラム(GDP)の有志の学生が、普段から様々なバックグラウンドを持った学生と交流している自分たちだからこそ、まちの中で多文化交流のきっかけが作れるのではないかと考え、2022年7月に実行委員会を設立。岡山のまちづくりに関わる社会人のサポートも受け、DP1・2回生21名で活動中。



茶は海を越え中国からやってきた！
岡山市生まれの栄西禅師と茶

岡山と中国茶文化の繋がりを知り、 中国茶を味わう茶会

岡山県生まれの明菴栄西(みょうあんようさい)は平安～鎌倉時代の禅僧であり、中国・宋で禅仏教を学び日本で禅宗と「茶礼」を広めた人物。その栄西禅師の功績で日本の茶の文化は独自に発展して今に至ります。

日本に繋がる中国茶の文化背景の話聞きながら、数種類の中国茶を色々な形で味わい(後半には焼き立てのレマーニのピザに茶葉を乗せて味わう予定)、日本や中国の茶の文化に浸ってみましょう。

[日程] 10/28(土)14:00～16:00

[対象] どなたでも

[料金] 2,500円※要予約

[定員] 18名

[会場] 地ビールレストランレマーニ

『レング広場』コテージ(岡山県備前市吉永町岩崎741)

[問合せ・予約] 086-234-2626 (公社)岡山県文化連盟



お申し込み

〈講師〉安道 規子 Noriko Ando

中国政府公認高級茶藝師。中国茶藝技師。中国茶高級評茶員。広東省広州市へ夫の赴任に同行。岡山県立美術館でのイベントや後楽園、文化芸術施設でのイベントなど、岡山県で中国茶に関する斬新なイベント企画多数。

[SNS] facebook.com/noriko.ando.7796

PICK UP
場
BIZEN
NO KUNI
所
PLACE

岡山市

中国本土にも存在しない 「幻の美術館」 范曹美術館

1984年(昭和59年)開館。世界的に評価されている中国画家の鬼才 范曾(はんそう)の最盛期の作品、特に大作を多く所蔵し、世界一のコレクションを誇る美術館。公益財団法人両備文化振興財団が運営する。コレクションのきっかけは故松田基(もと)初代館長が岡山市内の中華料理店で范曾の「八仙図」に出会い、その詩情溢れる豪放な筆致に感銘を受けたことに始まる。岡崎嘉平太は范曾を「中国の歴史に残る画家である」と称し、美術館設立に際しても尽力、名誉館長を務めた。

現在は、毎年2月第三土曜日の西大寺観音院会場の行事にあわせて、3日間のみ特別開館している。2024年は2月16日(金)～18日(日)に開館予定。



范曹《竹林七賢図》(公財)両備文化振興財団所蔵

范曹美術館

[住所] 〒704-8112 岡山県岡山市東区西大寺上1丁目

両備バス「西大寺バスセンター」2階

[電話] 086-271-1000 (公財)両備文化振興財団 夢二郷土美術館 本館

[MAIL] yumeji@gaea.ocn.ne.jp

[WEB] https://yumeji-art-museum.com/hanso/

現在の加賀郡吉備中央町に生まれ岡山県名誉県民でもある岡崎嘉平太(1897～1989)は幼い頃より中国の歴史書物に触れ、また中学や高校時代に中国人の留学生と親交を深めたことから日中友好に目覚めました。

その根底には古代より中国から日本へと文化が伝来し、隣国同士として共に歴史を積み重ねてきたことへの敬意があり、お互いに認め合い共存共栄することが両国の道であると考えていました。この考えを基に戦後の中国との国交断絶期を憂い、国交正常化の道筋を探ろうとし続けた中で中国の周恩来総理からも信頼を得、お互いに同じ志を持って心を通わせる間柄となりました。(写真①)

1972年に日中国交正常化がかなった後には、両国のさらなる相互理解を深めるべく、訪中を重ね、多くの中国要人からも信頼を得ることになりました。

岡山市東区西大寺にある中国人画家范曾の美術館には岡崎を描いた肖像画があります。岡崎は同美術館の名誉館長として開館時にはテープカットもしました(写真②)。この岡崎と范曾の縁も周恩来に起因します。周恩来の出身校である南開大学から岡崎に顧問教授の称号が贈られた際に、同大学の教授となっていた范曾が描いた岡崎と周恩来の肖像を当館でも所蔵しています(写真③)。

異文化への興味と理解、そして敬意を表することで岡崎嘉平太は中国人の人々からも厚い信頼を得ていたのではないのでしょうか。(岡崎嘉平太記念館 初岡 綾子)

PICK UP
場
BIZEN
NO KUNI
所
PLACE

吉備中央町

名誉県民岡崎嘉平太の功績と人柄をしのぶ 岡崎嘉平太記念館

岡山県・大和村(現吉備中央町)出身であり、生涯にわたって日中友好に尽くし、全日空の社長等財界人としても活躍した岡崎嘉平太(1897-1989)の功績と人柄を顕彰する記念館。常設展示室では岡崎氏の生涯と功績を紹介し、ビデオコーナーも設置している。また年に数回企画展や講演会等を開催。

岡崎嘉平太記念館

[住所] 〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川 4860-6 きびプラザ 1階

[電話] 0866-56-9033

[MAIL] okmh@okazaki-kaheita.jp

[WEB] https://www.okazaki-kaheita.jp



- ① 周恩来総理と会見 北京・人民大会堂にて(1971年3月1日)
- ② 范曾美術館開館の時に挨拶する嘉平太(1984年3月30日)
- ③ 范曾画 岡崎嘉平太と周恩来総理(岡崎嘉平太記念館蔵)



EVENT INFO

岡崎嘉平太がめざした世界平和への道を考える 第22回講演会

日中友好等に尽くした岡崎嘉平太の功績にちなみ世界平和に繋がる道を考える講演会を毎年開催。今回の講師にはANAホールディングス(株)取締役副会長の平子裕志氏と社会福祉法人旭川荘の前理事長末光茂氏をお迎えします。

[日程] 11/18(土) 13:30-16:00

[料金] 無料 [対象] どなたでも [定員] 120名程度

[会場] きびプラザ 3階大ホール

[問合せ・予約] 0866-56-9033



〈講師〉カスティロ彩美 Ayami Kastiro

4児の母。英語講師。バイリンガル子育て真っ最中。見て、聞いて、真似て、実感。個々の興味関心に寄り添いひとりひとりの能力を引き出し伸ばす英語の習得環境づくりを提案&サポートしています。

～喜び力は希望の架け橋～コミュニティサポートリジョイス代表。
子育ての孤立を防ぐ交流会やイベントの主催をしています。

英語で絵本が楽しめる～Enjoy English Story～ LET'S みんなで♡いたいむ -Everybody Enjoy English-

英語の手遊び歌や絵本朗読などのワークショップです。
英語の音やリズムを感じながら、英語の手遊び歌や絵本
を楽しめるE-time(いたいむ)になると嬉しいです。

♡英語に触れる時間が欲しい

♡英語を子どもと楽しみたい

♡英語の絵本が気になる

英語を楽しみたい方でしたら、どなたでもお気軽にご参
加ください。

[日程] 10/24(火)、11/7(火) ※所要時間 30～45分

両日とも①13:30～、②14:30～

[対象] 0歳から大人

[料金] 無料 ※要申込

(参加者数(大人&子ども)、子どもさんの年齢)

[定員] 各回10名

[会場] 蔭涼寺(岡山市北区中央町10-28)

[問合せ・申込] 086-234-2626 (公社)岡山県文化連盟



お申し込み

PICK UP
04

岡山市

日々の生活から
ネパールの「家族」の暮らしに想いを

岡山発！コーヒー栽培支援を通じた ネパールの貧困解決への取り組み

2023年7月、ネパール「レンブワ農園」のコーヒー生豆30キロが岡山に到着した。この30キロは、2015年にネパールで発生した大地震の復興支援として私たちアムダマインズが行った活動をきっかけとし、2019年に始動したレンブワ農園の記念すべき初収穫・初出荷であり、村の人たちの想いと努力が実を結んだひとつの証でもある。そして、平林金属株式会社が、私たちとネパールの村の人たちの想いを、ここ岡山につなげてくれた。ネパールはアジア最貧国のひとつである。震災復興はもとより、そもそも国内に収入機会のない若い世代はこぞ海外へ出稼ぎに行く。一方、彼らがなにより大切にするのは家族だ。「農業で食べていけるなら村で家族と一緒に暮らしたい」。そんな村の青年の言葉が、私たちがネパールコーヒーにかける願いの源流となっている。広大なヒマラヤの麓で、豊かな森と水に育まれたコーヒーはとても質が高い。そのコーヒーを、人の手だけで有機栽培している農家が適正な対価を得ることで、彼らの生活向上につながるのだ。岡山に暮らす人々の生活の一部にネパールのコーヒーがあり、それを飲むとき、少しでもネパールに暮らす人々に思いをはせてもらえんことを願っている。(ネパール事務所 事業統括 小林麻衣子)



特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構(アムダマインズ)

[住所] 700-0818 岡山県岡山市北区蕃山町4-5

岡山繊維会館3階

[電話] 086-232-8815

[MAIL] info@ml.amda-minds.org

[WEB] https://www.amda-minds.org/

[SNS] facebook.com/amda.minds

人づくり村づくりを通じ、世界の貧困地域において暮らしの改善に取り組んでいる認定NPO法人。現在9か国で、保健、農業、教育、生計向上などSDGs達成に向けた社会開発プロジェクトに携わっている他、日本国内では、国際理解教育や企業連携を通じた社会教育を推進している。2007年設立。AMDAグループ構成団体。

PICK UP
場
BIZEN
NO KUNI
所

赤磐市

世界中のこどもたちに本を 子ども図書館ほたる

未来をつくる子どもたち。その子どもたちに、想像力と創造力を育てて欲しい。デジタルで何でも知ることができる時代だからこそ、めくるページの中で出会う世界を大切にしたい。今まで見たことのない、これから見たい世界に出会って欲しい。そんな想いから「子ども図書館ほたる」をつくりました。感性豊かな子どもたちが自分の手で自由に世界をつくっていくように、デザインやアート、ものづくりなどの本を中心に揃えています。その本が作られた国や時代、対象年齢などにも縛られず好奇心のままに本を選んで、秘密基地みたいな小屋の中やとっておきのアンティークの椅子など自由な空間で自由に本を読んで欲しいと思っています。

大槻順一郎 Junichiro Otsuki

一般社団法人螢學舎 代表理事

2013年からの10年間でネパールに10館の図書館を建設。2023年8月2日開館の子ども図書館ほたるの代表理事。仕事ですが個人的な旅に関してもほとんどのアジア・アメリカ・カナダ・ヨーロッパを回り、異文化が私を作ってくれました。これからも出会いと好奇心を楽しみ続けたいと思います。



子ども図書館ほたる

[住所] 〒709-0825 赤磐市馬屋1434-7

[MAIL] john@axcis-inc.com

[WEB] https://kodomohotaru.com/

毎週水木土開館・定休日毎週日月火

PICK UP
場
BIZEN
NO KUNI
所

備前市

かやぶき屋根の古民家に泊られます 八塔寺国際交流ヴィラ

日本の歴史や文化、生活を外国の人に体験していただく国際交流ヴィラ。施設は木造茅葺平屋建ての宿泊棟と、土蔵を改築した展示室があり、伝統的農家の良さを味わえるよう、囲炉裏や五右衛門風呂等を備えています。築130年以上の江戸時代の面影を残すこの建物は、映画「黒い雨(今村昌平監督)」のロケ地として使われた後、外国人向けの宿泊施設として改修され、平成元年にオープンしました。そのため、利用者の大半を外国人が占めていますが、日本人でも利用できます。

岡山国際交流ヴィラとは

1980年代後半から1990年代初頭にかけて県が外国人観光客等が気軽に宿泊できるとともに、外国人と地域住民がヴィラを拠点に交流し国際理解と親善を深めること、また外国人に地域の固有の生活文化・伝統等を体験してもらうことを目的として設置した宿泊・滞在施設。現在、備前市吉永町の「八塔寺ヴィラ」と笠岡市白石島の「白石島ヴィラ」の2軒が利用できる。



八塔寺国際交流ヴィラ

[住所] 709-0301 岡山県備前市吉永町加賀美1193

[電話] 0869-84-2511(備前市役所吉永総合支所)

[MAIL] bzy-kanri@city.bizen.lg.jp

石場建て伝統構法専門大工

ご自身の活動における異文化との関わりについて教えてください。

私が岡山に来たきっかけは杣耕社の代表山本耕平さんとの出会いです。自分は京都で数寄屋造りの大工就業をしていました。山本さんは先輩の誘いでその工務店の工場を見学に来ました。その先輩は山本さんのお仕事を大変良く思い、私に紹介してくれたので、杣耕社の伝統構法に興味が湧きました。その後、弟子の年明けしてから京都の親方との相談で岡山に来て勉強し始めました。年を重ねて岡山で仕事をこなし、大工棟梁の役までさせていただきましました。今でも元々の親方に頼まれ、山本さんと海外のお仕事に行かせていただいています。

異文化との関わりを通してどんな変化がありましたか。
また、どんな変化を期待していますか。

日本の伝統木造建築に関わる仕事を全て大切にしたいと思っています。日本の伝統木造建築はいまだに日本にとって最先端に優れている造り方だと思っています。それに関わる仕事は数々あるのですが、最近の自作りは特にそれぞれの技が必要とされていなくて、出来るだけ職人が全滅しないように建築をデザインして建てています。なくなった知恵や知識は取り戻しにくいと思っています。日本の建築文化は世界で珍しく特別だと思うので一生懸命残そうとしています。



杣耕社（そまこうしゃ）
ストーリーメイヤー・
ジョナサン・アラン
Jonathan Stollenmeyer

アメリカ合衆国生まれ、建築大学卒業、建築事務所に勤め、手仕事に憧れ、日本の木造建築に旅で出会い、日本語専門学校を卒業してから日本で建築業務に勤め、岡山の杣耕社と出会い、岡山で10年、大工や経営業をさせて貰っています。

陶芸の道で、和の文化と心を学び続ける

ご自身の活動における異文化との関わりについて教えてください。

大学時代、備前焼作家で人間国宝の金重陶陽氏に師事したりロイ・ピーターソン氏の講義を受けたことがきっかけで、備前焼と日本文化にあこがれを持ち、その後に陶芸家の道を志しました。岡山に来て金重道明先生のもとで学ぶうちに、備前焼への理解と面白さがどんどん深まっていきました。今も日本の原風景が残る備前の土地に暮らし、良い陶土と炎が生み出す自然な美しさを探求しながら、40年近く作品をつくり続けています。備前焼は見るのも触るのも面白くて、使うことでさらに魅力が広がります。ぐい呑みなら縁の口当たり、徳利なら注ぐ時のトクトクトクという音にも、器としての良さがあります。どこかモダンアートに通じる印象もあり、備前焼に宿る「わびさび」の美意識、不完全性の価値が、自身のアイデンティティとなっています。

異文化との関わりを通してどんな変化がありましたか。
また、どんな変化を期待していますか。

金重道明先生に師事した約3年間、技を教わるのではなく心を磨き、「見て覚える・盗む」という、日本の職人修行を経験しました。親子のように濃い師弟関係の中で日本の生活になじみ、自然と和の心を吸収できたような気がします。長く所属している「岡山日米協会」では、副会長として文化交流活動を行っています。また、2023年に岡山大学大学院 社会文化科学研究科博士後期課程を卒業し、金重陶陽について英語での博士論文を完成させました。



備前焼作家 備前陶心会会員、陶友会会員、岡山日米協会副会長
ジョン・トーマス・ウェルズ
John Thomas Wells

アメリカ合衆国ミズーリ州出身。ロサンゼルスのおキシンデンタル大学在学中に備前焼と出会い、早稲田大学の交換留学生として初来日。備前焼作家を志し、1982年より金重道明氏に師事した後、1985年に自身の窯を築く。田部美術館「茶の湯の造形展」、日本伝統工芸展など数々の陶芸展に入選。（一社）岡山日米協会副会長を務める。

PICK UP
05

岡山市

外国人の受入れ、
交流を多様で寛容な社会への糸口に。

福祉活動助成 特別枠
「岡山に住む外国人への支援活動」

人口減少を迎えたいま、経済成長や社会保障制度の維持のためには、外国人の定住者（移民）を増やすことが、重要な課題解決のひとつとなっています。また、外国人の受け入れにおいて、考え方や文化の異なる人たちと関わることは、社会の多様性を醸成し、様々なマイノリティへの寛容、しなやかで強い社会への発展に繋がります。

私たちは、このような考えのもと、外国から来た人々を単なる「労働力」ではなく、「隣人」として受入れ交流することを重視し支援しています。この特別助成「岡山に住む外国人への支援活動」は、今回の募集で3回目となりました。今年度は岡山市内の10団体への助成を行っています。日本語学習支援や生活周辺への支援、日本文化の体験交流や地域の方との食文化の交流など、その活動は広がりを見せています。今後もこの特別助成が多文化交流「溶け合う異文化」のきっかけとなることを期待しています。



公益財団法人 橋本財団

【住所】700-0903 岡山県岡山市北区幸町 8-20
アクアテラス幸町 10F
【電話】086-201-7157
【MAIL】info@hashimotozaidan.or.jp
【WEB】https://www.hashimotozaidan.or.jp/

私たちは、岡山県における社会福祉の増進を目的とした公益法人です。福祉活動や調査研究への助成金交付事業、WEB マガジン・イベント等での情報発信事業、ソシエタス総合研究所の調査研究事業を通じて、共生社会の実現を目指しています。

PICK UP
06

岡山市

おいでよ COME ON

INE 外国にルーツのある
親子の居場所作り

INEは昨年度より毎月2回、日本語学習、日本文化の理解・体験、友達作り、専門家への相談など、未就学の親子対象に事業を実施し現在まで20ヶ国の参加者があります。歌いながら自分の名前を紹介したり、ひらがなカードを使った「ひらがなに向かってゴー！」などや、音楽に合わせて体を動かす、日本の季節・文化に合わせて「紫陽花の花」の工作、「カエルになってジャンプ」、日本語学習など親子で楽しい活動をしています。未就学の子どもを持つ在留外国人の保護者は、子育てしながら日本語学習や日本人と出会う機会が少なく、母国の言葉・文化とは異なる生活に困難さを感じて孤立化していることが多くなっています。8年ほど岡山に暮らしながらも地域の日本人と話をすることがない参加者もいます。未就学の子どもを育てる保護者の孤立化を防ぐことは、未来の担い手である子どもの育成に必要です。参加者の親子は自分のルーツだけでなく日本の言語・文化に触れながら、また我々も多文化の楽しさを感じ、お互いに多様性を持った感性を育てています。活動の中で友達ができて笑顔になり、楽しい時間を過ごしています。活動の終わりにはみんな次回を楽しみにしています。



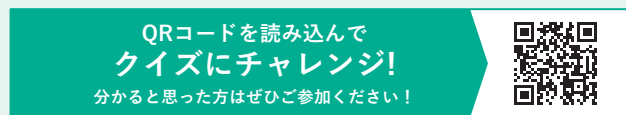
INE(居場所作りネットワーク)

【住所】〒700-0841 岡山県岡山市北区舟橋町 2-10
【電話】086-254-0833
【MAIL】ineokayama@gmail.com
【WEB】www.ineokayama.org
【SNS】facebook.com/ineokayama

設立は2021年8月3日。学校法人アジアの風 岡山外語学院・BIO(ビジネス・インキュベーター岡山)・グループYuuの3団体が、それぞれの強みを持ち寄り設立。日本語教育、人材育成・起業支援、多文化共生社会の構築などそれぞれの専門分野についての専門家により在留外国人の課題解決と支援を目的としている。

Quiz クイズに答えて、 県産品をもらっちゃおう！ 何の鳴き声？

韓国語、中国語、ベトナム語、ポルトガル語、ドイツ語の5カ国語で話される動物の鳴き声は何の鳴き声か、それぞれ選択肢から選んで回答してください。回答は応募フォームから可能です。全問正解した方の中から抽選で、「晴れの国おかやま館 おすすめ県産品」を10名様にプレゼントします。皆様、ふるってご応募ください。当選者の発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます。なお、クイズの正解は、12月中におかやま県民文化祭「これがOKAYAMA! プログラム」のWEBページにて発表します！



クイズの問題は、一般財団法人 岡山県国際交流協会、公益財団法人 橋本財団等のご協力のもと作成しております。

回答の選択肢	☐ 犬の鳴き声 ☐ 猫の鳴き声 ☐ 豚の鳴き声 ☐ カエルの鳴き声	☐ 猿の鳴き声 ☐ ゾウの鳴き声 ☐ にわとり(雄)の鳴き声 ☐ アヒルの鳴き声	☐ 馬の鳴き声 ☐ 牛の鳴き声 ☐ カラスの鳴き声 ☐ ひつじの鳴き声	☐ 鳩の鳴き声 ☐ ライオンの鳴き声 ☐ ヒヨコの鳴き声
--------	--	---	--	---

※写真は県産品のイメージです。
なにが届くかはお楽しみ。ぜひご応募ください。

全問正解者の中から抽選で
10名様 晴れの国おかやまの“おいしい”
県産品プレゼント！



白桃のチャツネが隠し味！岡山カレー



岡山産フルーツの缶詰

PICK UP
場
BIZEN
NO KUNI
所
PLACE

岡山市

異文化の香り漂う非日常空間で、
悠久の歴史を感じて

岡山市立オリエント美術館

オリエント美術館は1979年に開館し、岡山の実業家・安原真二郎氏や岡崎林平氏の旧蔵品を核とする約4,700点の美術考古資料を収蔵する、東アジア唯一の公立オリエント専門美術館です。市民の寄付により取得した当館を代表する作品アッシリア・レリーフ「有翼驚頭精霊像浮彫」は、古代アッシリア帝国の宮殿壁面彫刻で、古代オリエント美術の一つの到達点とされる世界的な文化遺産です。

建築は最高裁判所を設計した著名な建築家・岡田新一氏によるもので、中近東のエッセンスをちりばめた素晴らしい建築空間に多くの来館者が魅了されています。昨年4月大規模改修を経て再開館し、オリエント文化を親しみ易く紹介しています。

エジプトや西アジアでコーヒーといえば、アラビック・コーヒー。極細挽きのコーヒーにカルダモンを調合した粉を、イブリークと呼ばれる手鍋に注入、水を注ぎ砂糖を加えながら煮立てます。カップに粉ごと入れ、粉が底に沈んだ頃、独特の甘い香りとともにコーヒーの上澄みをそっと吸ります。濃厚でありながら爽やかな後味です。アラビック・コーヒーは、美術館内にある喫茶室イブリークで飲むことができます。



岡山市立オリエント美術館

[住所] 〒700-0814 岡山県岡山市北区天神町 9-31

[電話] 086-232-3636

[WEB] <https://www.city.okayama.jp/orientmuseum/>

EVENT INFO

特別展 大航海時代へーマルコ・ポーロが開いた世界ー

モンゴル帝国の時代と大航海時代。この二つの大きな時代は、マルコ・ポーロ(1254-1324)と彼が残した『東方見聞録』の一つの結節点としてつながることができます。

1271年、ヴェネツィアを出発したマルコ・ポーロは、足かけ17年を中国で過ごしました。ヴェネツィアに帰還後、彼が口述筆記させたのが旅行記『東方見聞録』です。この壮大な旅行記は、大航海時代(14世紀初頭から17世紀半ば)に活躍した人たちのガイドブックとなりました。この書に描かれた幻想的、かつ富と黄金に満ちた東洋(中国とジパング)のイメージこそ、大航海時代を切り開く冒険心の原動力でした。

大航海時代は、歴史上はじめて人・物・文化の交流が全地球規模で始まった時代です。日本にまで到達したその波は、南蛮文化として華開きました。本展では、シルクロードの発展から、モンゴル帝国の時代、そして大航海時代にいたる文化交流の姿を、奈良県天理市の天理大学附属天理参考館と天理図書館の貴重な所蔵品約200点でひもときます。本展鑑賞により、彼らの夢と冒険の高揚感を追体験していただければ幸いです。

[日程] 9/16(土)～11/12(日)

[料金] 一般1,200円(前売1,000円)

満65歳以上1,000円(前売800円)

高大生800円

小中学生500円

[対象] どなたでも

[定員] 制限なし

[会場] 岡山市立オリエント美術館

[問合せ] 086-232-3636



岡山県特産品ショップ 晴れの国 おかやま館

ネットと店舗、どちらでも「もらえる!」「使える!」
岡山県産品 応援!! **お得なキャンペーン実施中!**

※予算額に達し次第終了



オンラインショップで3,000円(税込)以上購入すると送料無料&20%ポイントプレゼント! 期間: ~ 2023年12月25日(月)19時まで

岡山銘菓などのお土産をはじめ、地元のこだわりの食品、備前焼、民芸品など、岡山県の特産品が一堂に揃う特産品ショップ。
JR岡山駅や岡山後楽園からも徒歩圏内なので、まち歩きの中にショッピングができて便利。



キャンペーンなどの
詳しい情報は
WEBサイトをチェック!

晴れの国おかやま館 検索

所 岡山市北区表町1-1-22
時 10:00~19:00
休 火曜日(祝日の場合は営業)
交 JR岡山駅から徒歩約15分
問 086-234-2270



店舗で1,100円(税込)購入ごとに200円分のクーポン券プレゼント! 期間: ~ 2023年12月25日(月)

Wake 和気町

「外国からの風を受け、混ざり合うまち」

人口1万4千弱ながら、毎年約100人を超える移住者がやってくるまち、和気。国内からの引越し組だけでなく、長く海外で暮らした、あるいは外国籍の移住者も多いのが特徴だ。例えば、映画の特殊映像加工（VFX）デザイナーとして働くファビオ・ウィルソンさんとWEB制作者の三村絵美さん夫妻は、より良い子育て環境を求めて和気町にやってきたうちのひと組。夫妻は、伊部に隣接し作陶家も多く窯を構える和気町で出会った備前焼に惚れ込み、紹介・販売するサイトを運営するようになった。（写真1）

東日本大震災を機に移住者が増えた岡山県の中で、和気町もまたその例にもれないが、移り住んできた人々が自分らしく暮らせる風土は、最近になってできたものではない。かつて吉井川の川港があり、時代が降っては柵原から瀬戸内海まで通じる片上鉄道（現在は廃線）、山陽本線の駅が置かれた和気町は交通の要衝であり、旧くから人々の行き交う土地であった。そのことが外からの風をやわらかく受け止め、混ざり合う土地柄につながっているのではないかと思える。現在、町内で会社や店舗を構える人々も、昭和時代に移住してきて自分の代で始めたという人が実は多いのだ。

開かれたマインドとクリエイティビティを発揮し、風を起こしているのは移住者ばかりではない。和気町生まれ、和気町育ちの定國誠也さんはセミプロの染色家で、備前焼作家をはじめとしたクリエイターの多いこの町で、駅前商店街の空き店舗を活用した「和気ものづくりフェスタ」を2016年から主催。定國さんは移住者も長年住む人も巻き込んで実行委員会を結成し、町内外の人々ともものづくりを通じた交流を生み出している。コロナ禍で中止していたフェスタも今年は再開予定だ。

また、「幸せはこぶからふるカンガ展」を主催するのは、先祖代々、水行谷（みずひきだに）神社の神職を務める能勢陽子さん。大学でスワヒリ語を学び、訪ねた先のケニアやタンザニアで集めたカラフルな布、カンガの展示と共に食や現地とのオンライン交流などを通して多角的にアフリカの文化に触れるイベントをこれまで2回開催している。会場を提供し共催したのは、千葉から移住した梅村久美さん、竜矢さん夫妻の営む藤野民宿。今年は町内の徳永こいのぼりに依頼し、カンガでできた鯉のぼりを制作、展示した。（写真2）

青い五月の空の下、色とりどりに泳ぐ鯉のぼりは、人々が個性を活かしながらともに新しい風景を生み出している和気町の今に重なって見える。



mosutou <https://motsutou.com/>

写真1



写真2



江森 真矢子
Mayako Emori
一般社団法人まなびと代表理事

東京都出身。国際基督教大学卒業後、教育関連企業で私立学校の広報、学習プログラムの制作・運営等を通じた魅力づくり支援に携わった後、リクルートに転じ教育専門誌の編集者に。2015年4月より3年間、和気町域おこし協力隊として岡山県立和気開谷高校の魅力化を通じた町の活性化をミッションに活動。現在、教育関連書籍等の編集・ライティングを行うほか、和気開谷高校コーディネーター、岡山県夢育アドバイザー、井原市ひとりづくりアドバイザー、岡山県アートで地域づくり実践講座講師等の活動を通してまち・ひとりづくりに取り組んでいる。編著書『地域協働による高校魅力化ガイド～社会に開かれた学校をつくる』（2019年/岩波書店）、『教育の島発 高校魅力化と島の仕事図鑑～地域とつくるこれからの高校教育』（2020年/学事出版）



資料1 ムルデルが策定した児島湾干拓計画図 農林水産省HPより



ムルデル(1848-1901)
オランダ生まれの土木技師。明治12年に来日しました。明治23年(1890)に完成したわが国土木史上、屈指の大事業となった利根運河を手がけました。

児島湾干拓と オランダ人土木技師のムルデル

KOJIMA BAY LAND RECLAMATION
WITH DUTCH CIVIL ENGINEER
ANTHONIE THOMAS LUBERTUS ROUWENHORST MULDER

明治時代に入ると、これまでお殿様に仕えていた武士の人たちが仕事を失ったため、こうした人たちが農業で生活できるように児島湾の干拓が行われました。政府はオランダ人のムルデルに児島湾を干拓できるかどうか調査を依頼し、ムルデルは児島湾を8つの区に分けた干拓の計画をとりまとめました。（資料1）

しかし、実際に工事をするには、多くのお金が必要となり、なかなか工事が開始されませんでした。そうした中、大阪の大富豪「藤田伝三郎」に工事をお願いし、伝三郎は自分のお金を出して工事を開始しました。当時は、コンクリートもない時代で、大きな石や木の枝などを使って堤防の土台をつくり、その上に土や石を積み上げ堤防を築いていきました。しかし、児島湾は底なしのような海で、堤防ができあ

がるとその重みで海の中に沈んでしまう大変難しい工事でした。その後、昭和23年に国（農林省）が工事を引きつぎ、昭和38年にすべての干拓事業が完成し、約5,500haの農地ができあがりました。

工事が完成したばかりの干拓地は、土の中に塩が混ざっていて、お米を作るのに大変苦労をしました。塩分を抜くために田んぼの中に溝を掘ったり、用水路をつくったりして、農業ができる環境を整えていきました。また、飲み水や生活に使う水は、井戸を掘っても塩水がでるため、溜めた雨水をろ過して使ったり、干拓地の外の村まで水をもらいに行っていました。今、児島湖の周りに広がる田んぼや畑は、昔の人たちの苦労や努力によってできた土地なのです。

今でも見ることができる児島湾干拓期の遺構「ケレップ水制」

岡山市中区桜橋・平井・江崎の旭川東岸には、岸から川の半ばに張り出す平面T形の石積みが築かれています。花崗岩の割石を組み上げたもので、不等沈下を防ぐために基礎が粗朶敷きとなっているこの石積みはケレップ水制と呼ばれ、現在でも19基が残り、最大のは川筋に沿う部分が約80mもあります。ケレップ水制を連続して設置することで、石組みの沖に勢いのある水流が誘導され、その部分では土砂の堆積が抑制されて深みが維持されるので、濁水期でも船が通ることができ、水路が確保されるという河川統御法です。旭川の往時の水運を支えたケレップ水制も明治期以降オランダ人技師によってもたらされた技法です。



旭川のケレップ水制



〈講師：石垣 忍 Shinobu Ishigaki〉

岡山理科大学恐竜学博物館館長。元林原自然科学博物館館長。1954年和歌山県生まれ。東京教育大学（現筑波大学）理学部卒、理学博士。専門は恐竜の足跡化石をもとに恐竜の姿勢や行動、生活を復元する研究。主なフィールドは北アフリカ、モロッコ国とモンゴルのゴビ砂漠。1994年から岡山の研究機関とモンゴルの共同恐竜調査の中心メンバーをつとめ、現在もほぼ毎年モンゴルに調査に行っている。著書に「モロッコの恐竜」（築地書館）、「恐竜と歩こう」（童心社）など。

岡山理科大学 恐竜学博物館 【電話】086-256-9804

【MAIL】yoyaku.kyoryugakuhakubutsukan@gmail.com

【WEB】http://dinosaur.ous.ac.jp/museum.html

恐竜体験・ゴビ砂漠自然体験・そしてモンゴル異文化体験のミックス！それが恐竜共同発掘現場。

体験話と化石見学、そして発掘された爪と歯のレプリカ作り（持ち帰り可能）から「現場」の息吹を感じましょう。

ゴビ砂漠恐竜発掘調査隊の『研究員』になってみませんか。

岡山理科大学とモンゴルの恐竜共同調査では、両国の研究者が毎年共同でゴビ砂漠において恐竜発掘を行っています。この共同調査は数々の重要な発見をしながら、すでに30年間も続いています。なぜそんなに長く続けてこられたのか？それは、互いに相手を尊重しながら、「同じ釜の飯を食いながら一緒に発展する」を合言葉に仕事を続けてきたからだとは考えています。共同調査の写真と掘り出された化石（恐竜学博物館に展示中）を見、発掘道具や岩石・化石に触り、実際に発掘された化石の複製（爪と歯）を作ったり（持ち帰り可能）、隊員のテントに入ったりしながら、発掘の現場を想像し、そこで日本人とモンゴル人が一緒に力を合わせるためには何が必要なのかを考えてみましょう。

【日程】11/23（木・祝）13:00～16:00

【対象】小学生から大人（小学校低学年は保護者同伴）

【料金】500円 【定員】30名

【会場】岡山理科大学 恐竜学博物館

【問合せ・申込】086-234-2626（公社）岡山県文化連盟



お申し込み

一般財団法人地域創造は、文化・芸術の振興による創造性豊かな地域づくりを目的として、全国の地方団体等の出捐により1994（平成6）年に設立された、総務省の外郭団体です。地域の公共ホール・劇場の職員の企画制作力向上を図る「ステージラボ」や、演劇の手法を活用し、公共ホールに派遣した演劇の表現者と公共ホールの職員が地域に応じたプログラムを企画・検討する「リージョナルシアター事業」など、多彩なプログラムを通じて主に公共ホールにおける人材育成をリードしてきました。また、地域の公立美術館職員の実践的な運営能力の向上を目的とした「オーダーメイド型研修事業」や、公立美術館の企画・制作能力の向上と連携促進を図るための「共同巡回展支援助成」など、公立美術館の運営・企画支援も行なっています。今年のアートマネジメントセミナーは、その地域創造が年1回のペースで発行する雑誌「地域創造」の編集プロデューサーとして、雑誌の創刊から全国各地の公立文化施設の現場取材して来られた坪池栄子さんを講師に迎え、文化・芸術環境づくりのケーススタディーや公立文化施設の有効な運営方法を模索する知恵などについてお話を伺います。坪池さんは自ら足を運び目で見てきた人にしかわかりえない公立文化施設のあれやこれやを、本音で語ってくださる稀有な方です。今回はオンライン配信なしで会場に足を運んでくださった方のみが聞ける「ここだけの話」。お見逃しなく。



講師 坪池栄子 EIKO TSUBOIKE

株式会社文化科学研究所

「地域創造レター」「雑誌地域創造」編集プロデューサー

略歴：1955年生まれ。1981年～95年までびあ株式会社。情報誌びあの演劇記者を経て、文化科学研究所（旧・びあ総合研究所）編集プロデューサー。地域創造が発行する「地域創造レター」「雑誌地域創造」（1995年～現在）と、国際交流基金が運営する「Performing Arts Network Japan」（2004年～2023年）を立ち上げ、地域創造大賞（総務大臣賞）審査員ほか。

石井十次の孤児救済活動

本2023年9月17・18日、岡山芸術創造劇場ハレノワ開館事業として、創作市民ミュージカル「石井十次物語」上演（写真）。明治期の備前岡山における新流入プロテスタント系キリスト教による異文化溶融の実例として、石井十次の孤児救済活動を見つめよう。

石井十次は1865年（慶応元年）、宮崎県生まれ。キリスト教との出会いがきっかけで、病人を救う医師を目指し、そのため、キリスト教が広く信仰され、しかも医学学校のある岡山を選び、岡山大学医学部の前身、岡山県甲種医学学校に入学。キリスト教の信念から英プリストルに孤児院を設立し、1886年明治19年末に来日したジョージ・ミラーが、新島襄の依頼により同志社英学校で行った講演を、のちにアジア人初の救世軍牧師となる、岡山出身の山室重平とともに聴講し、献金で孤児院を運営するミューラ主義での孤児院運営を構想する。

十次は1887年（明治20年）4月、邑久上阿知の診療所で代診の際、隣の大師堂に宿泊した四国八十八か所巡礼帰りの母親から男児を引き取ったのを契機に（のち1917年（大正6年）、現地に「岡山孤児院発祥地碑」建立）、9月、岡山門田屋敷の三友寺の一室に岡山孤児教育会（のち岡山孤児院）を開設。1888年（明治21年）、20人の孤児を集め、資金集めに尽力する。この十次の活動は岡山の仏教界にも影響。同年8月、キリスト教への対抗意識から浄土真宗本願寺派と真言宗の教戒師が協力し、小原町（現岡山市北区清輝橋一丁目）に感化院を設立（のち

1894（明治27年）7月と1895年（明治28年）10月に立て続けに二度、水害に見舞われ経営難となり発展的に解消。1897年（明治30年）10月、初代岡山市長花房端端（まさつら）を総理とする半官半民の備作恵済会、現更生保護法人・古松岡岡山市北区鹿田本町が事業を引き継いでいる。一方、十次も1889年（明治22年）、孤児救済に生涯を捧げる決心をし、医学学校を退校、国内のみならず、外国人からも寄付を受け孤児院を維持、孤児院の中に実業部門設置、音楽幻燈会など、当時確立した米式幻燈を見せながら、ブラスバンド吹奏楽で音楽を奏で、孤児たちに労働に従事させ資金化（写真2）。ハワイ・米本土・韓国にまで遠征し資金調達。孤児数は一時1200人、出身地は29府県に及び、その名は全国に轟く。

1895年（明治28年）、十次夫人品子病歿後、十次と再婚した看護師石井辰子も3人の遺児を養育。1899年（明治32年）7月、岡山幻燈隊の倉敷伝道集会で大原孫三郎と出会い支援開始。1902年（明治35年）、院内の女子高等科に念願の看護科設置。1914年（大正3年）、十次歿。1921年（大正10年）、大原孫三郎らの後を受け、辰子、第4代院長に就任。1926年（大正15年）、個人での孤児救済は限界とし、院解散に至るまで職責を全うし、1927年（昭和2年）歿。1969年（昭和44年）、十次生誕104年、歿後55年でのゆかりの岡山市門田に石井十次記念聖園が開設されている。



写真2「石井記念友愛社」



谷一尚 Takashi Taniichi

1952年岡山市生まれ。東京大学文学部考古学科卒業、同大学院人文社会系研究科文学博士。岡山市立オリエント美術館学芸員、共立女子大学大学院比較文化研究科教授、日本学術会議東洋学委員、日本ガラス工芸学会会長、岡山市立オリエント美術館館長を経て、現在、林原美術館館長、山陽学園大学副学長・教授。専門は、シルクロード～岡山の文化資源学・考古美術ガラス文化史。



写真1



▶ 実験室45 ◀

ことばのおと、
おとのことば



写真：KOSAC

日本語には「カリカリ」「ごろごろ」といった音を表現した擬音語、「びよんびよん」「くるくる」など、動きや状態を表す擬態語があり、心揺さぶる表現の美しいことばだと思います。言葉が詩になり音楽となる即興的な楽しみ方をするユニークな文化に出会いました。

エチオピアの吟遊詩人・楽師の人類学研究をされている川瀬慈さんと音楽活動や色んな場所で、様々なジャンルを駆使しながら対話のプロセスを形にしているハブヒロシさんを講師に迎え、言葉と音に関する其々の活動経験ともに異文化の出会いやそこで見た母国の言葉の形などについてお話ししていただきます。私たちが使っている言葉について考える時間を持つことで、新たな世界が見えてくるかもしれません。

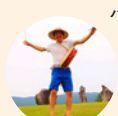
【日時】11/26(日) 11:00-16:00

【会場】喫茶さざなみハウス (瀬戸内市邑久町虫明6539)

【分野】音楽、教育、映像



川瀬 慈(かわせ いっし) | 1977年岐阜県生まれ。映像人類学者。国立民族学博物館准教授。エチオピアの吟遊詩人の研究に基づき、詩、小説、映像作品、パフォーマンス等、既存の学問の枠組みにとらわれない創作活動を行う。著書に『ストリートの精霊たち』(鉄犬ヘトロピア文学賞)、『エチオピア高原の吟遊詩人うたに生きる者たち』(サントリー学芸賞、梅棹忠夫・山と探検文学賞)、『叡智の鳥』等。オンライン学術誌 TRAJECTORIA を2019年に創設し、編集長を務める。



ハブヒロシ | アーティスト/遊戯奏者/NPO法人丹田呼吸法普及会理事長/京都大学大学院医学研究科特定研究員/医学博士。インドネシアでのガムラン修行やセネガルでのサバールドラム修行、馬喰町バンドなどのバンド活動、関ジャニ∞や台湾原住民とのレコーディングなど、様々なジャンルで活動した後、地域おこし協力隊として岡山の高梁市へ徒歩移住。2022年、ハーバード大学で社会疫学の研究をするため渡米。芸能の現在性、出会いと対話のプロセスを形にし、ある種の詩/沈黙のような瞬間に触れるような主にコミュニティ(死者/未来/風土等含む)を巡るアートプロジェクトに邁進。

お申込み・お問合せは

WEB フォーム or お電話にて

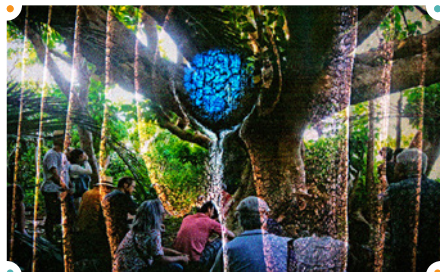
TEL 086-234-2626

<https://o-bunren.jp/koreoka2023>



▶ 実験室44 ◀

溶け合う異文化：
自然の一部として『個』を考える



写真：KOSAC

文化というものは自然環境と人間の営みが混ざり合い様々なバリエーションをもち生まれてくるものです。全世界的に今、自然や生態系のあり方を問い直している中、身近に触れる自然と調和することについて考えてみるのはいかがでしょうか。

今回お招きする『クレオール主義』の著者・今福龍太氏は、1980年代初頭からメキシコ、カリブ海、アメリカ南西部、ブラジルなどに滞在し調査研究され、さらに奄美・沖縄・台湾を結ぶ群島に遊動的な学び舎を求めて(奄美自由大学)を創設し主宰するなど、長年、溶け合う異文化について考えてこられた方でもあります。彼の著書の中に『ヘンリー・ソロー野生の学舎』がありますが、アメリカの思想家ヘンリー・ソローが愛した「エオリアン・ハーブ(風で奏でる弦楽器)」から触発され講師の三線演奏や世界のフルート体験など、いつもとは違う角度で音に触れる機会を設けました。もう一人の講師として、インドネシア国立芸術大学ジョグジャカルタ校に留学し、ガムラン演奏者であり音楽家としての活動されている岩本象一さんを招いて、インドネシアでの経験やガムランについてのお話、世界共通語である音楽から見た交差する異文化のことを聞かせていただき、二人の講師の異なった場所の異文化の経験談から共通する人間本来の原初的姿について考える時間を過ごしてみます。

【日時】10/8(日) 12:00-16:00

【会場】犬島自然の家 (岡山市東区犬島119-1)

【分野】文学、アート、教育、音楽、伝統芸能



今福 龍太(いまふく りゅうた) | 文化人類学者・批評家。1955年東京に生まれ湘南の海辺で育つ。1980年代初頭からメキシコ、カリブ海、アメリカ南西部、ブラジルなどに滞在し調査研究に従事。その後、国内外の大学で教鞭をとりつづ、2002年より奄美・沖縄・台湾を結ぶ群島に遊動的な学び舎を求めて(奄美自由大学)を創設し主宰。著書に『ヘンリー・ソロー野生の学舎』(讀文文学賞)、『宮沢賢治デクノボーの歌知』(宮沢賢治賞・角川財団学芸賞)、『ぼくの昆虫学の先生たちへ』など多数。著書『クレオール主義』、『群島・世界論』を含む新旧著作のコレクション(パルティータ)全5巻が2018年に完結。



岩本 象一(いわもと しょういち) | 1981年生まれ・神戸出身。2005-2008 インドネシア政府奨学金を得てインドネシア国立芸術大学ジョグジャカルタ校に留学、ガムラン演奏や舞踊を習う。帰国後、神戸のジャワガムラングループ代表を経て岡山に移住。2010年より奉還町にてガムラン教室を開講。インドネシア語通訳や翻訳も行っている。

▶ 実験室43 ◀

美食地質学：
この地域の食はなぜ美味しいのか



おばあちゃんやお母さんが作る料理は他と比べられない美味しさがあります。それは、料理の味だけではなく、人と食材と場所の、環境や人との関係性から形成される個人の温かい想いからくるものでしょう。人や場所と離れた時に郷愁を感じるのも、自分が慣れ親しんで育まれたものの愛情があるからではないでしょうか。

私たちの住む岡山県は、恵まれた気候と繋がるように美味しい果物や食材がよく知られています。瀬戸内の多島海と山が連なる豊かな環境と食の関係を地球の中身から探る機会を設けました。

今回、マグマ学者であり、美食地質学の創始者である巽好幸さんと古典料理研究家であり、犬島貝塚調査保護プロジェクトチーム事務局長を勤めた岡嶋隆司さんを講師に迎え、岡山県的地域的な特徴と食の関係を地質学的、食文化史的な視点から紐解いてみたいと思います。

【日時】9/24(日) 11:30-16:00

【会場】渚の交番 ひなせうみらぼ (備前市日生町日生3518-5)

【分野】食、科学、歴史、教育



巽 好幸(たつみ よしゆき) | ジオリブ研究所 所長。1954年大阪生まれ。理学博士(東京大学)。京都大学総合人間学部教授、同大学院理学研究科教授、東京大学海洋研究所教授、海洋研究開発機構プログラムディレクター、神戸大学海洋底探査センター教授、同大学高等研究院海共生研究アライアンス長などを歴任。水惑星地球の進化や超巨大噴火のメカニズムを「マグマ学」の視点で考えている。主な一般向け著書として『富士山大噴火と阿蘇山大噴火』(幻冬舎新書)、『地震と噴火は必ず起こる』(新潮選書)、『和食はなぜ美味しい-日本列島の贈り物』(岩波書店)など。NHKスペシャル「ジオ・ジャパン」シリーズ、MBS「情熱大陸」など出演・監修、多数。



岡嶋 隆司(おかじ まかし) | 考古学と食文化史を研究。犬島貝塚調査保護プロジェクトチーム事務局長・日本考古学協会会員・日本動物考古学会会員・岡山県遺跡保護調査団団員・食文化史研究・日本古典料理研究・料理人。日本料理に携わりながら伝統と仕来りを古典料理や古献立などから研究、また文献と遺跡から出土する食物残滓から当時の食文化を研究している。「表書院での食生活について」「史跡岡山城本丸跡での段段掘調査報告」(岡山市教育委員会、1997年)、「郷土料理」『大学的 岡山ガイド-こだわりの歩き方』岡山大学文明動態学研究所編(昭和堂、2023年)その他多数寄稿。

▶ 実験室42 ◀

訪問実験室! 文化芸術が生まれてくる現場⑥
プロによるプロのための指導とは。
オペラの練習風景から



このシリーズでは、文化芸術が日々生み出される場所と、そこで創作や生活をしている表現者に会いに出不かけます。日頃私たちが足を踏み入れることの出来ないプライベートな現場には、どんな仕事道具があり、どのような手順で創作をされているのでしょうか。訪問実験室の映像や登場する人々の言葉を通して、これまで関わりのなかった分野に、突如、興味が湧くかもしれません。進むべき道に迷っている学生の方々にも、おすすめします。

シリーズ6回目は、何となく素人には敷居の高いオペラの舞台裏をのぞき見します。岡山市内にあるルネスホールでは、大学などで声楽の専門教育を受けたのち、地域で活動する声楽家の皆さんが改めてオペラを学び、その成果を発表する実践型のアカデミー「アルテ・シェニカ」に取り組んでいます。プロによるプロのためのオペラ指導の現場では、何が起きているのでしょうか。現状に満足せず表現者として常に高みを目指し続けるための工夫に迫ります。登場人物のイメージを膨らませ、作曲家の意図する表現に近づくための絶妙な言葉かけや具体性のある指示内容はどなたでも十分に共感できるものです。練習風景を知ること、オペラがぐっと身近に感じられるはずです。

【分野】音楽、歴史、語学、美術

【形式】YouTube 配信 (岡山県文化連盟 公式チャンネル

「OKAYAMA CULTURE V」にて近日配信予定)

ルネス・アカデミー アルテ・シェニカ (舞台表現) オペラ部門 | 岡山県在住の若いアーティストの育成及び公演のクオリティー向上のための研修を行い、舞台表現に欠かせない技術・表現法を現地的、実践的な実習で、即戦力になるアーティストを育成することを目的として、平成29年にスタート。Made in OKAYAMA の本格的なオペラの開催と、アーティストが岡山在住でも生活できる環境を目指して、一年間、毎週のようにレッスンを続け、その集大成となる修了公演を行っている。



公式チャンネル



Check!

これまでの実験室の様子をWEBサイトで公開中

「文化芸術交流実験室」で検索!

<https://o-bunren.jp/lab/>

